

平成28年4月28日

広島大学インキュベーション研究拠点
日本型（発）畜産・酪農技術開発センターの取り組み

酪農家を対象に「第1回酪農技術セミナー」を開催しました

広島大学日本型（発）畜産・酪農技術開発センターは、1月22日、広島県酪農業協同組合との共催で、全国の酪農家を主な対象とした酪農技術セミナーを開催しました。

大学院生物圏科学研究科は、全国でも有数の酪農教育・研究施設を有しており、また本州以南ではトップレベルです。今回のような大学主催の酪農家対象のセミナーは珍しく、近県にとどまらず全国から酪農家、農業普及員など約150人が参加しました。

セミナーの内容は、国内の酪農現場で深刻な問題になっている「乳用牛の飼養管理」をテーマに、カナダのアルバータ大学大場真人教授を招き、分娩移行期の飼養管理等に関する研究内容について、講演をしていただきました。当センターからは准教授の杉野が乳用牛の暑熱・光周期管理をテーマに講演しました。参加した酪農家からは積極的な質問が相次ぎ、活発な議論が展開されました。その内容は、国内酪農産業界のトップジャーナルである「Dairy Japan」4月号に特集されるほどの反響でした。

本州以南では酪農家を対象としたセミナーはあまりなく、今後も継続して続けて欲しいとの声が多くありました。このような本取り組みは、（国）農研機構畜産草地研究所もその重要性を理解しており、次回は11月に畜産草地研究所、広島県酪農業協同組合との共催で開催予定です。

【お問い合わせ先】

大学院生物圏科学研究科
家畜飼養学研究室 杉野 利久
[TEL:082-424-7956](tel:082-424-7956) FAX:082-424-7956

基礎研究を畜産技術開発につなげるトランスレーショナル型研究拠点

-日本型(発)畜産・酪農技術開発センター-

研究拠点リーダー: 吉村 幸則(生物圏科学研究科)

安全で高い生産機能を発揮する先進畜産技術開発の教育研究

目標

安全で高い生産機能を発揮する先進畜産技術開発の教育研究を推進

- ・ 栄養代謝、生殖、健康科学領域の科学の発展
- ・ 人類の食の安全保証を高める社会貢献
- ・ 分野融合による新しいアグリサイエンス研究を展開するイノベーション創出

背景

世界の畜産における問題点

人口増と食生活向上・畜産物需要拡大と競争による食料・畜産物の不足そして飼料の国際競争と価格の高騰

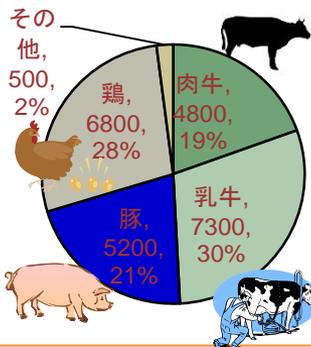
栄養代謝機能の向上・繁殖技術の向上・感染防御機能の向上が必要

我が国の畜産業

生産高2兆5千億円あまりの一大産業。農業生産高の約3割を占める。

問題点

- ・ 国土狭隘で生産スペース不足と飼料の輸入依存
- ・ 生産コスト高
- ・ TPPなどによる関税の低率化、撤廃による、国際的価格競争の激化
- ・ 担い手不足



安全で美味しい乳・肉・卵の生産、豊かな食生活実現のため、持続可能な生産・環境保全が必要

活動内容

～Move under one Roof による先進畜産技術開発～

プロジェクト①
安全な養鶏業の確立を目指した感染防御研究

プロジェクト④
新規プロジェクトの選定

プロジェクト間研究情報の共有による新たな研究の展開とアグリサイエンス創出

プロジェクト②
生殖学の基礎研究からの繁殖技術開発研究

プロジェクト③
栄養分子代謝学から飼養管理技術の開発研究

- 院生・留学生の受け入れ増
- 若手研究者の採用
- 幅広い素養を身につけた院生・研究者の育成
- サマースチューデント制度
- 国際共同研究

効果

1. 国際社会のニーズに対応した応用研究の展開 (革新的な畜産・酪農イノベーション技術の開発)
Ex. 栄養代謝機能強化、人工繁殖研究、自然免疫機能の強化研究等
2. 家畜生産の生命科学と技術の原理を確立と世界への発信
Ex. 農学・酪農学・畜産学分野の論文数増加、優秀な留学生的の確保、アジア研究ネットワークの形成
3. 畜産物増産により、食の安全保障を高める社会貢献
4. 栄養、生殖、健康科学領域の科学の発展

